

平成 29 年 12 月 21 日

生活支援サポーター各位

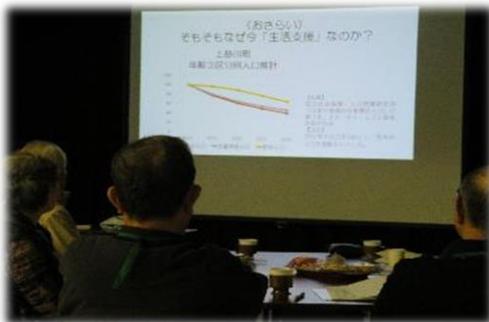
～生活支援サロン～ よってけ場^ほ 活動レポート Vol. 5

12月20日水曜日、午後1時から役場内大会議室で、第5回「よってけ場」が開催されました。連日の大雪で疲れている中、足を運んで頂いたサポーターの皆様、ありがとうございました！

前段では、来年4月までにサロン活動を一般公開することを踏まえて、紙を使った広告について考える時間を設けました。コーディネーターからは相変わらず抽象的なテーマを投げかけられるので大変だったかと思いますが、それでも色々な角度から談話が進み、活動のヒントになる言葉もたくさん飛び出すので、非常に頼もしく思います。



「Zの法則」は、今後活動を広めていこうとするときにも役に立つと思いますので、頭の片隅にでも置いていただけると嬉しいです。



今回は平成 29 年最後のサロン活動ということで、今年的生活支援に関する活動の振り返りと、今後の「寄ってけ場」の活動方針について、スライドを使いながら確認しました。大まかな内容は以下のとおりです。

① 最近「生活支援」や「支え合い」が全国的に叫ばれているのはなぜなのか？

高齢化率や人口減少の表は各所でたくさん見てきていると思い、今回は少し違う視点のグラフを用意してみました。2025年（8年後）の上砂川はどんな状況になりそうなのか、今から少しでも具体的にイメージしておくことが大切ですね。

② いままでの活動と、これからの活動

平成 29 年に行ってきた生活支援関連の行事について振り返りました。

ゆっくりですが、一步一步前へ進んでいることを実感してもらえたら嬉しいです。



これまでの活動を踏まえた上で、来年度の活動目標も例示しました。

主な内容は以下のとおりです。

1. 生活支援サービスの開始

平成 30 年 4 月を目途に、具体的な生活支援サービスの提供を開始します。最初は「要支援 1～2」の方々を対象に始めるのが妥当かと思っています。

コーディネーターからサロンへ情報を提供し、サロン内で解決方法を探るといった流れを作ることが、平成 30 年の大きな目標です。



2. 「よってけ場」の継続と発展

形だけを整えるのではなく、サポーターが活動に価値を感じる事が出来るような、中身のある生活支援サービスを 5 年 10 年と継続させるためには、「よってけ場」のような座談会や交流活動が必要不可欠です。

今後はサポーターの皆さんの趣味や興味のある事をどんどん取り入れながら、老人クラブや小地域ネットワーク、小・中学校、商工会議所などと一緒に、活動の多世代化、多様化を目指して行きたいと思っています。

何をやるにしても「出来ることを、出来る分だけ」をしっかり意識しながら、楽しく活動できればと思います。

次回の活動日程は、以下のとおりです。

～生活支援交流サロン～ よってけ場

平成 30 年 1 月 19 日（金）10：00～12：00

役場内東館 大会議室

今年は大変お世話になりました。本当に有難うございます！
来年もよろしく願いいたします。皆様、良いお年を！

